

第3回

聴覚障害学生高等教育支援 アメリカ視察報告会

主 催: 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)

日 時: 平成18年5月14日(土)

会 場: 海洋船舶ビル 10階会議室

PEPNet-Japan は日本財団の助成により運営されている PEN-International の活動の一部で、筑波技術大学によって運営されています。



目次

開催要項

視察報告資料

視察概要 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 白澤麻弓氏

「学生・教職員に向けた啓発の取り組み」

メディア教育開発センター 大倉孝昭氏

同志社大学 木村隆幸氏

愛媛大学 原田美藤氏

「聴覚障害学生のニーズに基づいた支援サービスの提供

ーノートテイク・手話通訳・C-printー」

関東聴覚障害学生サポートセンター 吉川あゆみ氏

「聴覚障害学生への支援体制の構築」

群馬大学 金澤貴之氏

実践報告資料

啓発ー日本版 Tip Sheet の作成

宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター 松崎丈氏

情報保障ー情報保障者養成教材の作成

静岡福祉大学 太田晴康氏

支援体制構築ー講義保障システム運営・構築マニュアルの作成

関東聴覚障害学生サポートセンター 倉谷慶子氏

参考資料

「ロチェスター工科大学(RIT)の概要」

(「第2回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告書」p7-9)

「PEPNet(The Postsecondary Education Programs Network)およびNETACの概要」

(「第2回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告書」p72-84)

PEPNet パンフレット

NETAC パンフレット

PEPNet-Japan パンフレット

開催要項

第3回 聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告会 開催要項

日 時： 平成 18 年 5 月 14 日（日）

場 所： 海洋船舶ビル（東京都港区虎ノ門 1 丁目 15 番 16 号）

プログラム：（司会：筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 長南浩人氏）

13:30～15:00 『ロチェスター工科大学における聴覚障害学生支援サービス』

視察概要

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 白澤麻弓氏

「学生・教職員に向けた啓発の取り組み」

メディア教育開発センター 大倉孝昭氏

同志社大学 木村隆幸氏

愛媛大学 原田美藤氏

「聴覚障害学生のニーズに基づいた支援サービスの提供

ーノートテイク・手話通訳・C-printー」

関東聴覚障害学生サポートセンター 吉川あゆみ氏

「学内支援体制の立ち上げのために」

群馬大学 金澤貴之氏

質疑応答

<休 憩>

15:15～16:00 実践報告

『アメリカ視察の成果から見た今後の我が国の課題と PEPNet-Japan の役割
ー啓発・情報保障・支援体制構築ー』

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 白澤麻弓氏

宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター 松崎丈氏

静岡福祉大学 太田晴康氏

関東聴覚障害学生サポートセンター 倉谷慶子氏

質疑応答

主 催： 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)

連絡先： 〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

障害者支援研究部支援交流室聴覚系 WG 担当：白澤麻弓

協 力： 手話通訳（中嶋直子、津山美奈子、湯沢聡子）

リアルタイム字幕（キャプション・ペガサス）

第3回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察 (PEPNet 全米大会 2006 への参加) 概 要

1. 日程

3月29日(水)	日本・成田空港発→ニューヨーク州ロチェスター市着	
3月30日(木)	ロチェスター工科大学視察	
3月31日(金)		
4月1日(土)	ナイアガラ観光	
4月2日(日)	休日	
4月3日(月)	ロチェスター工科大学視察	
4月4日(火)	ロチェスター発→ケンタッキー州ルイヴィル市着	
4月5日(水)	PEPNet 全米大会 2006 大会詳細 WEB ページ http://www.pepnet.org/confer_biennial.asp	
4月6日(木)		
4月7日(金)		
4月8日(土)		ルイヴィル発
4月9日(日)		日本・成田空港着

2. 視察参加者

関東聴覚障害学生サポートセンター 吉川あゆみ
 メディア教育開発センター客員教授 大倉孝昭
 群馬大学教育学部障害児教育講座助教授 金澤貴之
 静岡福祉大学社会福祉学部福祉情報学科講師 斎藤剛
 同志社大学学生支援課専任職員 木村隆幸
 愛媛大学障害者修学支援委員 原田美藤
 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター支援交流室聴覚系WG助教授 長南浩人
 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター支援交流室聴覚系WG助手 白澤麻弓

<日本財団>

日本財団国際協力部 BHN チームリーダー 石井靖乃
 日本財団国際協力部 BHN チーム 高橋恵里子

<日本手話通訳>

中島亜紀子・高橋智美

(順不同・敬称略)

3. 視察地（ロチェスター工科大学とルイヴィル市の位置）





PEPNet Japan Delegation@NTID

29 Mar - 4 April 2006

Mifuji Harada, Dr. Chonan Hirohito, Takayuki Kanazawa, Akiko Nakajima, Prof. Takaaki Okura, Dr. Tsuyoshi Saito, Dr. Mayumi Shirasawa, Tomomi Takahashi, Takayuki Kimura, Ayumi Yoshikawa

	Wednesday 29-Mar	Thursday 30-Mar	Friday 31-Mar	Saturday 1-Apr	Sunday 2-Apr	Monday 3-Apr	Tuesday 4-Apr
7:00 - 8:00 AM			Breakfast at Hotel	Breakfast at Hotel	Breakfast at Hotel	Breakfast at Hotel	Rochester Shuttle Express to airport UA 151 departing 8:12 am
8:30 AM		Walk/Hotel Shuttle to Campus	Hotel Shuttle to Campus				
9:00 AM		Welcome breakfast Continental breakfast PEN-International Training Room	Online Learning "My Courses" Joeann Humbert Richard Fasse Wallace Library				
9:30 AM							
10:00 AM							
10:30 AM		PEN-International Overview Jim DeCaro, Bill Clymer					
11:00 AM		Dr. T. Alan Huwiz, VP/Dean NTID	C-Print Pam Francis PEN Training Room				
11:30 AM							
12:00 Noon		Lunch with Pat Billies, NETAC/PEPNet					
12:30 PM			Lunch Dining Commons	"Free" Day to enjoy Rochester			
1:00 PM							
1:30 PM					Niagara Falls Rochester Shuttle Express pick-up at hotel 10 am return to hotel 5 pm	Classroom Visit Entrepreneurship Mike Scrivens 12-3125 (1/2 group)	
2:00 PM							
2:30 PM		Tour of NTID Walking tour of RITCampus	Access Services Interpreting Services Steve Nelson PEN-International Trainign Room			Cross Registered Classes Tutoring/Notetaking Pat Rahalewicz, Jim Blser 12-1115	
3:00 PM						Classroom Visit Financial Accounting Bud Kearns 12-3225 (1/2 group)	
3:30 PM							
4:00 PM		return to hotel Hotel shuttle	return to hotel Hotel Shuttle			return to hotel Hotel Shuttle	
4:30 PM							
5:00 PM	Arriving Rochester 3:59 pm UA 242 Rochester Shuttle Express to Radisson Inn 175 Jefferson Road 475-1910	Evening to Relax Dinner at Radisson Inn	Evening to Relax Dinner at DeCaro Home Bus departs hotel 6:00	Evening to Relax Dinner at Radisson Inn	Evening to Relax Dinner at Radisson Inn	Evening to Relax Dinner at Radisson Inn	
Evening Activities							

学生・教職員に向けた 啓発の取り組み

14/05/06

大倉孝昭
大阪大谷大学 教育福祉学部 教授
木村隆幸
同志社大学学生支援センター
原田美藤
愛媛大学障害者修学支援委員

本セッションの流れ

米国の啓発マテリアル	大倉
学生支援者のスタンス	木村
日本版 啓発用ゲームソフト	木村
日本語字幕つき啓発用DVD	大倉
米国版 啓発用ゲーム	原田

米国の啓発用マテリアル

1. 全体像
2. 幅広い対象者への啓蒙
- 3.1 ビデオ関連(CD、DVD、VHS)
- 3.2 ビデオ関連(CD、DVD、VHS)
4. ゲーム
5. 日本語字幕付与による国内での普及

米国の啓発用リソース発信元

1. PEPNet リソースセンター
<http://prc.csun.edu/>
2. NTIDリソースセンター
<http://www.ntid.rit.edu/ntidweb/resources.php>
3. HARRISコミュニケーションズ
<http://www.harriscomm.com>
4. DAWN SIGN PRESS
<http://www.dawnsign.com/>

1. 全体像

1. 支援サービスのビジネス化
2. 多様な支援方法による理解者の増加
3. 新しい考え方の広がり
赤ちゃん与会話するための手話
4. 聾文化の理解を深める本
5. 聾芸術家の作品
6. ゲーム、アクティビティ

2. 赤ちゃんとの手話

1. 聾の母親、聾の子供
たった14語の手話
食べ物に関する手話
遊びのときの手話
2. 両親と先生
DVDシリーズ
ステップbyステップ
グリム童話のビデオ



<http://www.dawnsign.com/>

3.1 ビデオ(DVD&VHS)

1. 1 CD-ROM, DVD

- (1) A Closer Look: Sign for American National Government
- (2) A Closer Look: Sign for English Composition
- (3) A Closer Look: Signs for Idioms
- (4) A Nuts and Bolts Guide: College Success for Deaf and Hard of Hearing Students
- (5) Make a Difference: Tips for Teaching Students Who are Deaf or Hard Hearing
- (6) Preparing Postsecondary Professionals: P3
- (7) Signs of Survival: Health and Public Safety
- (8) Math Signs
- (9) Living With Hearing Loss

1. 2 ビデオテープ

27本 (\$10 each)



3.2 ビデオ(DVD&VHS)

2. HarrisCommunications社



4. ゲーム&アクティビティ

Part of the Group (本)

: Games That Increase Social Understanding

- 耳の聞こえない人のグループのための35のゲーム
- 通常45分未満/ゲーム

American Sign Language Activities (本)

- 手話教える101のゲーム&アクティビティ

具体的な中味は入手してみないと判らない!



5. DVDの日本への導入方法

1. 米国の組織が著作権・著作隣接権を所有するDVDを輸入・利用
2. 日本語字幕つきViewerを開発 (NTIDとPEP Net-Japanが協働)
3. PCでViewerを用いてDVDを閲覧



BeingDeafの事例紹介



6. Speech to Text by Excel

PC操作スキルが低くてもDVD, ビデオから字幕が作成可

7.1 学生支援のスタンス

① 聴学生への支援

- カウンセラーチーム
- 学生生活センター
- Student Lifeチーム

② 健聴学生及び教職員への啓蒙

- 『Two Worlds』
- CLASS ACT <http://www.rit.edu/%7Eclassact/>



学生支援のスタンス（2）

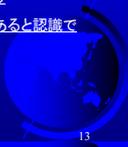
③課外活動

- ・ボーリングイベント実施
- ・オンラインゲーム大会
- ・クラブ・サークル活動

※学生主導のものも、学生生活センター主導のものもある。

支援のスタンス

- ・健聴・聾を問わず、学生が同じ時間・作業を共有できる環境作り
- ・世界の違う面者同志が接することは、自分達の成長の機会であると認識できるという考え方



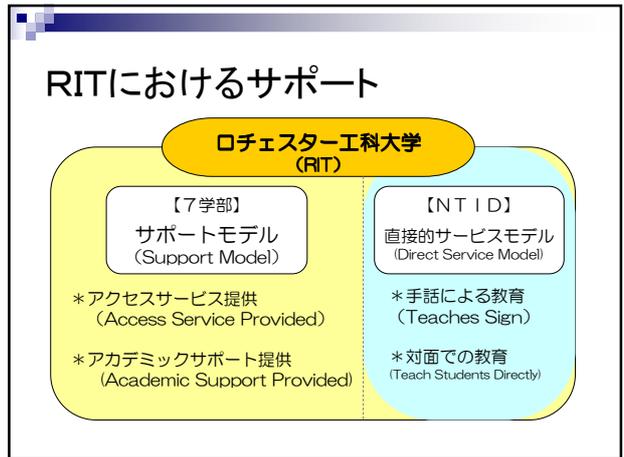
聴覚障害学生の ニーズに基づいた 支援サービスの提供

関東聴覚障害学生サポートセンター
吉川 あゆみ



NTIDの聴覚障害学生

性別	J.C (男性)	C.S (男性)	T.M (男性)	T.P (女性)	C.H (女性)
出身 (不明)	韓国→米国	セントルイス	カリフォルニア	テキサス	
専攻	コミュニケー ション工学	政治	情報工学	芸術	イラストレー ション
教育歴	小：ろう学校 中～：普通校	～小3 難聴学級 小4～：普通校	～小3 ろう学校 小4～：普通校	幼：ろう学校 小～高：普通校 (DP)	小～高：普通校 (DP)
小中高 の授業	手話通訳あり 英数は個別指導	通訳なし FM補聴器使用 個別指導あり	通訳なし FM補聴器使用	通訳なし LD学級で学ぶ	手話通訳あり
手話の 習得	小1～6 寄宿舎 で習得	大学入学後習得	高校入学後習得	高2のDPで手 話と出会う で習得	2歳～家庭訪問 で習得
両親と の会話	手話 の会話	口話 (父方祖父 母はろう者)	口話	口話 (昨年手話 を学び始める)	手話
DPの 関わり	中～高は郡のろ う専門コーディ ネーターが来校	高3～週1日他 校の専門の先生 が来校	近所にDP校が あったが両親が 賛成せず	高2～DPで手 話と出会う (積極的参加は せず)	幼～高DPあり (積極的参加は せず)



- ### アクセスサービスの概要 (Access Services Provided)
- 手話通訳 (Interpreting)
 - ノートテイク (Notetaking)
 - 技術を活用した支援 (Technological Solution)
 - カウンセリング (Counseling)

- ### 手話通訳について (Interpreting Services)
- 手話通訳110名
 - 外部通訳者
 - ろう通訳者 (対ろう盲学生)
 - 学生通訳者 (通訳養成コース在学中)

視察報告「聴覚障害学生のニーズに基づいた支援サービスの提供」

関東聴覚障害学生サポートセンター 吉川あゆみ氏

ノートテイクについて (Notetaking)

- ノートテイクコーディネーター
- ノートテイク（養成を受けた学生）
- Webによるノート掲示
- サポート教員によるノート評価

技術を活用した支援 (Technological Solution)

- 補聴サービス
- 文字通訳への技術活用
(C-Print、Real-Time Captioning)
- 字幕

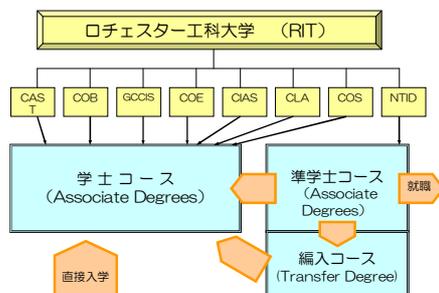
カウンセリングについて (Counseling)

- 個人カウンセリング
- 就学相談

アカデミックサポートについて (Academic Support Provided)

- 学習指導(Instruction)
→ 個別、小グループ、クラス
- 学業相談(Academic Advising/Counseling)
- メンタリング(Mentoring)
- 教員向けサービス(Liaison)

RIT・NTIDにおけるコース



RIT学生の卒業率

- 一年生修了者 (聴覚障害学生) : 86%
- 聴覚障害学生の卒業率 : 68%
- 一般学生の卒業率(RIT) : 60%
- 他大学の聴覚障害学生 : 25%

聴覚障害学生への支援体制の構築

群馬大学 金澤貴之

サイトコーディネーターとは...?

・PEPNet: 4つの区域からなる、全米のネットワーク



NTIDIに設置された地域センターがNETAC。州ごとにサイトコーディネーターが配置され、聴覚障害学生を引き受ける大学へのサービスを提供。

サイトコーディネーターができること

- ・聴覚障害学生を受け入れる大学に対するコンサルタンサービス
- ・地域センターで作成したマテリアルの提供

サポートサービスそのものは、各大学実施するもの。代わりに情報保障業務をしてくれるわけではない。VRI(遠隔地手話通訳)...紹介するのはシステムであり、手話通訳そのものは(少なくともその費用負担は)、各々の大学が考えること。

→ **支援の必要性をいかにして理解させるかが重要**

3人の専門家へのインタビュー



左から: James J. DeCaroさん (PEN-Internationalのディレクター)
 : Annette Leonardさん (WROCCのプロジェクトコーディネーター)
 : Pat Billiesさん (NETACのプロジェクトコーディネーター)
 : Desiree Dudaさん (NY Downstateのサイトコーディネーター)

予算をかけることの必要性を、どう説得するか?

- ・法的根拠: ADA法がある。...しかしそれがすべてではない。
- ・心情に訴える: 建国の精神(独立, 公正, 自由)。「もし聾学生がきちんと通訳サービスなどを与えられていないと一般大衆などが聞けば、それは非常におかしいという声があるだろう。」
- ・コスト面から: すべてが非常に高いというわけではない FMシステムとノートテイク, 遠隔の手話通訳のシステムなどから紹介。
- ・サポートの効用に訴える:
 - ・ドロップアウトさせないために有効
 - ・社会に貢献できる人材を育てられる

説得の手段としてのVRS(ビデオリレーサービス)

リレーサービスがなぜ無料なのか?

電話料金に少しづつ課金。

→ 2億人のアメリカ国民が少額ずつ負担して無料のビデオサービスが成り立っている。

聾学生のサポートも同じこと。

全学生の授業料を用いて聾学生のサポートが行われる。

アンネットさんの説得手法（反対する上司には？）

- ・まず、障害学生支援担当者（コーディネーター）のところに行き、うまくいかない理由が何かを聞き出す
 - ・上司が、聾学生は能力が低いと思っている。
 - ・お金がかかりすぎている。
 - ・聾学生を受け入れる理由がよくわかっていない。...など。
- ・それに対する答えを用意してディレクターのところに行く。
あるいは、「これが今あなたの大学の抱えている問題なのですよ」ということを指摘しに行く。
- ・上的人是下からの情報をそのまま受け入れなかったとしても、外部からエキスパートが来て言うと聞くことが頻繁にある。
PEPNetから来た専門家が言った事は受け入れられやすい。
→このような方法をとることで、上司は現場で働く人の意見や発言を、「まさにその通りだった」と受け入れられる。

デジリーさんの説得手法（ソフトな関係作りを...）

- ・ニューヨークでは、サポートをしないという大学はほとんどない。問題は自分がまるで警察官のような立場に思われること。
→大学側がリラックスでき、心地よく話せることを重視。
↓
「聾学生や難聴学生がこれだけ在籍しているんですね」といったことをフレンドリーに話しつつ、「こういうことやああいうことも無料で使えるんですよ。」とPEPNetが開発したものをウェブ上で見せる。
- ・難しい状況になった1校の例。
何度も必要性を訴えたが、聾学生自身が通訳サービスが必要であるということに全く賛成せず、大学の担当者も賛成しない。
→ まずは、学生自身に手話の必要性について教育することが重要

アメリカから、何を持ち帰るか...？

- ・ADA法の存在は、強力ではあるが、決定打ではない。
→ 「これがないから、日本の障害学生支援は進まない」というロジックは、必ずしも適切であるとはいえないのではないかな。
- ・決して少なくない予算がかかるのは、日本もアメリカも同じ。
自動的に用意されるのではなく、十分な理由説明の上に、納得される過程を経て、予算措置されるのも、同じ。
- ・サポートの必要性を説くためのテクニック（＝支援体制の立ち上げに必要なテクニック）は、日本もアメリカも似ているのではないかな。

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)

日本版TipSheet作成事業

平成18年度進捗状況報告

代表 松崎 丈

(宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター代表・宮城教育大学講師)

TipSheet編集作業チーム 清水里奈・中島亜紀子・菊池真里

1. TipSheetとは？

TipSheetは、もともとアメリカのPEPNetを構成する4つの地域センターのひとつである北東地区テクニカルアシスタントセンター(NETAC)によって開発された資料である。TipSheetには、「ノートテイクとは何か?」「手話通訳とは何か?」など聴覚障害学生をつこれから支援していくために必要な情報がトピックごとに1枚ずつのシートに収められており、これから支援を始めようとする教職員や関係者に手軽に配布できる形でまとめられている。NETACのサイトコーディネーターは、これから支援を始める教職員や関係者に対し、彼らからの相談にあわせて関連するTipSheetを無償提供したうえで、e-mailなどによる聴覚障害学生支援コンサルティングを実施している。

日本でも、このようなTipSheetがあれば、全国各地で初めて聴覚障害学生を受け入れる大学教職員や関係者のニーズにそった情報の発信がより容易になる上に、シートの手軽さから、聴覚障害学生支援に関わる基本的知識の共有を広げていくとともに、聴覚障害学生支援コンサルティングをスムーズに進めるための有効な資料として活用できるのではないかと考え、平成17年5月からTipSheetの作成を進めている。

2. TipSheet開発事業の活動内容

- ①国内で必要と思われる10~15のトピックのTipSheetを各弾毎に作成する。
- ②トピックに関する専門家に執筆依頼し、印刷配布およびWeb上でTipSheetデータベースを作成・公開する。
- ③国内におけるTipSheetの活用状況とニーズを逐一調査し、新たなトピックのTipSheet作成計画を検討する。

3. 現在の進捗状況

第1弾のTipSheetについて17トピックとその執筆候補者の案を作り、執筆依頼などの交渉をした結果、12トピックのTipSheetを作成することができた。

第1弾TipSheet一覧

タイトル	執筆者	所属
1. 聴覚障害児・者と教育・コミュニケーションについて		
(1)聴覚障害	大沼直紀	筑波技術大学
(2)聴覚障害幼児・児童・生徒を困む教育環境	根本匡文	筑波技術大学
(3)聴覚障害者のコミュニケーション	太田富雄	福岡教育大学
2. 高等教育における聴覚障害学生支援について		
(4)高等教育における聴覚障害学生支援	白澤麻弓	筑波技術大学
(5)聴覚障害学生支援の全国的状況	白澤麻弓	筑波技術大学
(6)情報保障の手段	岩田吉生	愛知教育大学
3. 聴覚障害学生に対する支援の実際について		
(7)文字による通訳方法	三好茂樹	筑波技術大学
(8)手書きノートテイクとパソコンノートテイク	太田晴康	静岡福祉大学
(9)入学時のサポート	土橋恵美子	同志社大
	中島亜紀子	関東聴覚障害学生サポートセンター
	倉谷慶子	関東聴覚障害学生サポートセンター
(10)学生支援コーディネーター	土橋恵美子	同志社大
	中島亜紀子	関東聴覚障害学生サポートセンター
(11)聴覚障害学生の心理的支援	倉谷慶子	関東聴覚障害学生サポートセンター
	吉川あゆみ	関東聴覚障害学生サポートセンター
(12)通訳者の健康障害とその対応	埜田和史	滋賀医科大学

4. 今後の方針

- ①今後も引き続き第2弾のTipSheetを作成する。平成18年夏に公開の予定。
- ②Web上でTipSheetデータベースを作成する。平成18年夏~秋にPEPNet-Japanホームページにて公開の予定。

聴覚障害学生支援の展開

～サポートシステム構築にかかわりを持つ外部機関からの集約～

関東聴覚障害学生サポートセンター 倉谷慶子

1 サポートのきっかけ

- ①聴障学生本人
- ②担任教員、学生課職員
- ③周囲の積極的な友人
- ④ボランティア
- ⑤親

2 手探りのサポート

- ①講義の後に友人にノートを見せてもらう
- ②友人に自己流のノートテイクを頼む
- ③講義を録音し家族或いは支援者がテープ起こしを行う
- ④教員の講義ノートのコピーをもらう
- ⑤担当教員がメモをとる、聞き取った内容をパソコンに打ち込むなど情報保障を試みる
- ⑥他大学の手話サークルの協力を得てノートテイク講座を実施する
- ⑦サポート経験を持つ他大学の学生課などに情報を求める

3 自己流に行き詰まり、外部に協力を求める

- ①社会福祉協議会、ボランティアセンター
- ②聴障学生が居住する地域や大学周辺の要約筆記サークル
- ③大学周辺の区・市など行政の要約筆記及び手話通訳派遣の利用
- ④外部機関に相談

4 サポートの具体化

【例】関東聴覚障害学生サポートセンターとの連携

- ①聴障学生本人、サポートに関わる教職員、サポートセンタースタッフ・通訳者の面談
 - i 聴障学生本人の大学での様子はどうか
 - ii 聴障学生本人の要望は何か
 - iii 聴障学生本人と教員・職員のコミュニケーションは取れているか
 - iv 大学側のサポートに関する現状と将来の方針を確認
 - ・サポートのためのチーム・組織作り
 - ・財政の裏付け
 - ・教員と事務職員の連携
 - ・学生サークルとの関係
- ②支援の具体化に向けての提案
 - ・障害の理解と支援のあり方
 - ・大学内で支援者を確保⇒養成講座の開催
 - ・学外から通訳者を派遣⇒地域資源の活用、サポートセンター
 - ・必要経費の説明
 - ・大学独自のシステム化を視野にしたネットワーク
 - ・教員の理解と協力

5 養成講座の開催

- ①在校生・大学周辺の社会人を受講対象にした養成講座の開催
 - ・日程、目的、カリキュラムの確認、費用
 - ・教職員の理解
 - ・障害学生の役割
 - ・支援者としての登録
- ②定期的に開催し、大学内で次世代を育成、指導できる態勢を考慮

6 コーディネートの開始

- ①コーディネートの目的
 - ・機械的な組み合わせではなく意図的なものを目指す
 - ・より適切な環境で、より質のよい情報保障を受けられるための配慮
- ②大学が調整を担う目的
 - ・聴障学生の負担軽減
 - ・通訳者としての明確な位置付け
 - ・緊急時の連絡対応
 - ・問題が起きたときの教員への連絡、配慮の依頼
 - ・物的環境条件の整備
- ③通訳担当のルール化
 - ・担当コマ数の上限（1週間に何コマまで）
 - ・1コマ2名以上で担当
 - ・頸肩腕症、燃えつき症
- ④対聴障学生
 - ・通訳にたいする不満・要望、情報保障者との相性の調整
 - ・利用する側のマナー
- ⑤対通訳者
 - ・報告書
 - ・遅刻・無断欠席の対応
 - ・通訳者としてのマナー、技術的な指導、レベルアップ研修会
 - ・講義の担当教員からの評価
- ⑥対健聴学生・教員への啓発
- ⑦懇談会開催

7 次の段階への課題

- ①教員、職員、健聴学生の障害理解
- ②サポート態勢の継続
- ③聴障学生本人の障害受容
- ④通訳者の確保と維持
- ⑤講義に即した通訳方法の選択
- ⑥サポートシステムの評価
- ⑦通常講義以外のサポート
- ⑧通訳者のネットワーク化
- ⑨社会人のキャリアアップ
- ⑩支援専門員の配置

第1部 ロチェスター工科大学 (RIT) の取り組み

第1章 ロチェスター工科大学 (RIT) の概要

河野純大 (筑波技術大学産業技術学部助教授)

白澤麻弓 (筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター助手)

1. NTID と RIT

RIT(Rochester Institute of Technology:ロチェスター工科大学)は応用科学・工学・ビジネスなどの7つのカレッジを持つ私立大学である。これに対して NTID(National Technical Institute for the Deaf:国立聾工科大学)は、アメリカ連邦政府の援助による聴覚障害学生のための特別プログラムであり、RIT 内の1カレッジ

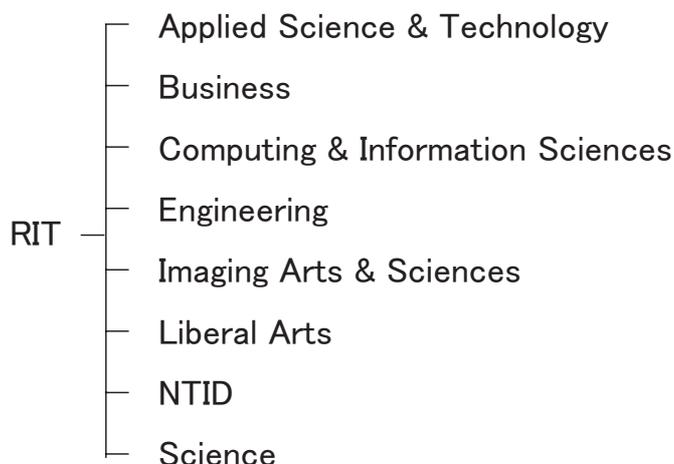


図1 RITの学部構成

ジとして位置づけられている。RIT 内には現在約1100名の聴覚障害学生が在籍しており、その約半数がNTIDに在籍している。NTIDには副(準)学士コース(2年)、学士コース(4年)、修士コース(2年)などのコースがあり、副(準)学士コースでは専任教員が手話を使いながら直接学生を指導している。また副学士の学位を取得後、RIT内の他の7学部へ編入することもでき、この場合はNTIDのサポートを受けながら学士の学位を取得することになる。さらに、学士コースで学ぶには基礎学力が不足している学生のための学士準備コースもあり、修士コース(ろうまたは難聴学生のための高等教育における科学修士)では聞こえない学生、聞こえる学生の両方が入学できている。

2. RITにおける聴覚障害学生サポートサービス

米国の大学では在籍する障害学生への支援のために、学内型障害学生サポートセンターが設置され、手話通訳等の必要なサービスが提供されている例が多い(図2)。RITの場合、NTIDそのものがこのセンターにあたる機能を果たしているが、RIT内にはこの他にさらに4つのサテライト的なサポートセンターが設置されており、NTID以外の7つの学部に

在籍する聴覚障害学生のサポートを行っている（図 3）。この 4 つのサポートセンターは CBGS（Center for Baccalaureate and Graduate Studies）と呼ばれており、それぞれ専属の手話通訳コーディネーターやノートテイクコーディネーター、カウンセラー等が配置されていて、担当学部に通じる聴覚障害学生からの依頼を受けて表 1 に示すような各種サービスを提供している。

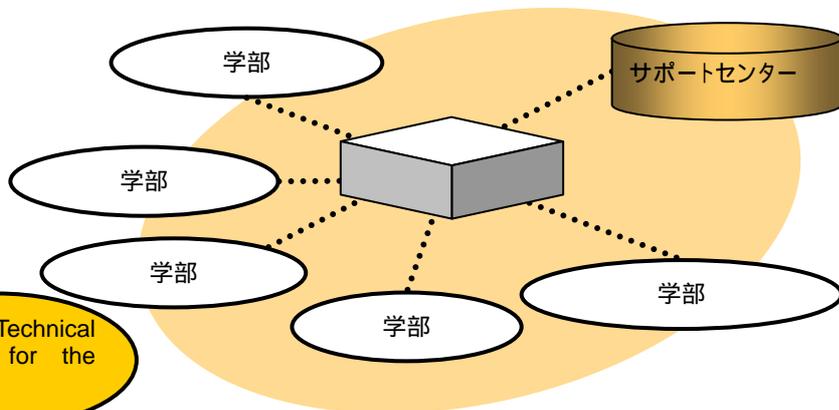


図 2 学内型障害学生サポートセンターの例

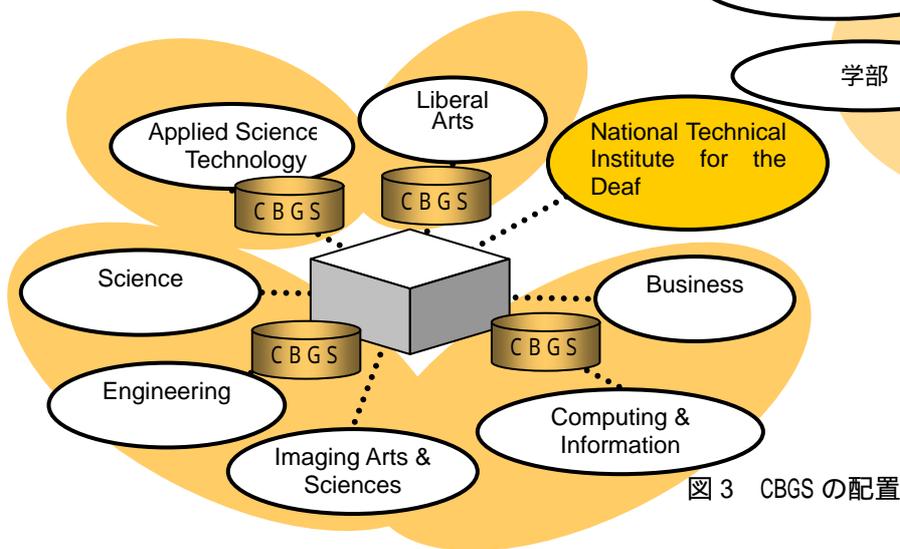


図 3 CBGS の配置

本視察では、こうした RIT 内の個々のサービスについて、それぞれ担当のコーディネーターから詳しい内容と現状についての説明を受けることができた。本項では、これらサービスの概要と RIT における聴覚障害学生支援を支える NTID の取り組みについて報告する。

表 1 CBGS が提供しているサービスの内容

サービス	概要	通訳者数	提供時間数	養成等
Interpreting 手話通訳	アメリカ手話通訳、対应手話通訳、口話通訳（キユード通訳を含む）触手話通訳など学生の好みに応じて派遣を行う。授業以外への派遣も可能。ただし、口話通訳は基本的に 1 年次のみ派遣で、複数の学生が同一の授業をとっていたり、通訳者が足りない場合には希望に添えないこともある。通訳依頼は履修登録の際に行い、オンラインで登録可能（通訳が付くかどうかオンラインで確認可）。	101 人（他に、フリーランス通訳者 / ろうの通訳者 / 通訳者養成コースの学生など）	94134 時間（供給率 97%） 講義:75710 講義外:10811 会議等:7613	大学の通訳者養成コースを修了した通訳者等をフルタイムで雇用している。技術の程度によって 4 段階に分けられており、平均収入は 31000\$/年

Notetaking ノートテイク	一般学生をノートテイク者として養成し、聴覚障害学生の要望にあわせて授業に派遣している。授業後ノートはCBGSからスキャンセンターに送られ、24時間以内(通常は1~2時間以内)にインターネット上にアップロードされるため、聴覚障害学生は必要なときに適宜アクセスして閲覧することが可能。ノートテイクは基本的にすでに保障を行う講義を取ったことがある学生が現在履修中の学生に依頼し、記述内容に間違いがないように授業担当教官もチェックを行うことが多い。	300~400人	55439時間 (うち5670時間は、NTIDの学生で重複障害のためにノートテイクが必要な学生へのサポート)	4時間の養成講座を受けた学生がノートテイク者として登録。今学期よりオンライントレーニングも開始。 \$6.42/h
C-printing パソコン通訳	NTIDが開発したパソコン通訳の方法で、キーボードを用いたタイプ方式と、音声認識を用いた音声入力方式の二通りがある。いずれも通常一人の通訳者が授業保障にあたる。数年前から本格的に導入されたばかりであるため、まだ提供数は少なく、手話や文字によるコミュニケーションを困難とする盲ろう学生に優先的に割り当てている。	10人程度	1596時間	オンラインによるトレーニング
Tutoring チュータリング	学生のコミュニケーション状態にあわせた学習指導を提供する。手話等のコミュニケーションが可能な教員その他、聴覚障害学生ですでに学士を取得した先輩によるチューターも行われている。学生に対して学業上の援助をするだけでなく、授業内で適切なサポートが行われているかもチェックし、不備がある場合はCBGSと協力して改善を求めていっている。		14487時間	
その他	Audiological services (補聴サービス)、Speech and language services (発音・言語訓練)、Mental health counseling and psychotherapy (心理カウンセリング、心理療法)、Personal and career counseling and academic advising (個人相談、職業相談、就学相談)、Student Life Team (学生生活チーム:新入生へのサポート、黒人などマイノリティグループへのサポート、リーダー養成など)、Financial aid (財政的援助)、Technological assistance (技術支援:字幕教材作成支援など)、Substance and Alcohol Intervention Services for the Deaf (薬物およびアルコール依存症の学生への援助)			

ここでいうノートテイクサービスとは、手話通訳等の情報保障手段と併用して授業内容の記録を取るためのノートを作成するものであり、日本で用いられている筆記通訳としてのノートテイクとは異なる。

PEPNet(The Postsecondary Education Programs Network)の取り組み

PEPNet(The Postsecondary Education Programs Network)および NETACの概要

松崎文（宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター代表）

白澤麻弓（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター助手）

1. はじめに

アメリカでは、障害者教育法（Individuals with Disabilities Education Act）によって 3～21 才の障害児・者の教育を受ける権利が保障されており、同時に ADA 法（Americans with Disabilities Act）によって高等教育機関を含む公的施設における障害者差別が禁止されていることは承知の事実であると思われる。

こうした法的措置を受け、高等教育機関における聴覚障害学生の機会均等を保障するために行われている取り組みが、本稿で紹介する PEPNet（The Postsecondary Education Programs Network）である。PEPNet とは、長年先進校において培われてきたサポートのノウハウを、全米の各大学・短大全体へ広め、アメリカにおける聴覚障害学生サポートをより充実させることを目的に設立された、4つの地域センターで構成されるネットワークで、米国教育省と特殊教育局の援助により運営されている（須藤, 2001）。実は米国教育省は、4つの地域センターを設立した際、それぞれのセンターが独立して運営するものと思っていた。しかし、地域センター的役割を担う関係者から4地域が共同して動くことが提案され、現在のネットワーク形態になった。PEPNetの各地域センターの運営や各サイトの活動にかかる費用は、すべて4つの地域センターに投じられた連邦政府からの補助金によって成り立っている。各センター年間100万ドル（約1億2000万円）全体で400万ドル（約4億8000万円）にも上る。PEPNet全体のための予算（例えば PEPNet 全米大会の実施など）は、各地域センターが連邦政府の補助金から5000ドル（約60万円）ずつ出し合って必要経費をまかなっている。

1996年に5年契約で開始され、現在は5年間で500万ドルの助成を受けている（現

在 2 期目の 4 年目)。ちなみに、PEPNet は、当初大学にだけ提供してきたが、それだけでなく中学校や高校などにもサービスが必要なことに気づき、今は大学周辺の機関にもサポートしている。以下、PEPNet の組織体制及び活動内容について報告する。

2 . PEPNet の組織と活動

PEPNet は全米をカバーする高等教育機関のネットワークであるが、活動をスムーズにするために、日常的な活動は図 1 に示すような 4 区域に分かれて行われている。それぞれの区域内では、長年充実したサポートサービスを提供してきた大学を中核大学として指定し、ここに地域センターを置いて全体を統括する形となっている(表 1)。同時に、区域全体をカバーするためのサイトが各区域内に置かれており、統括する地域の大学に対して各種アドバイスやサポートサービスを提供している。サイトの多くは聴覚障害学生の受け入れに実績のある大学の障害学生支援センター内に設置されているが、この形態や運営方法については各区域の地域センターに任せられているとのことで、現時点では州ごとにサイトを置いている区域と、数カ所のサイトで区域全体をカバーしている所に分かれていた。

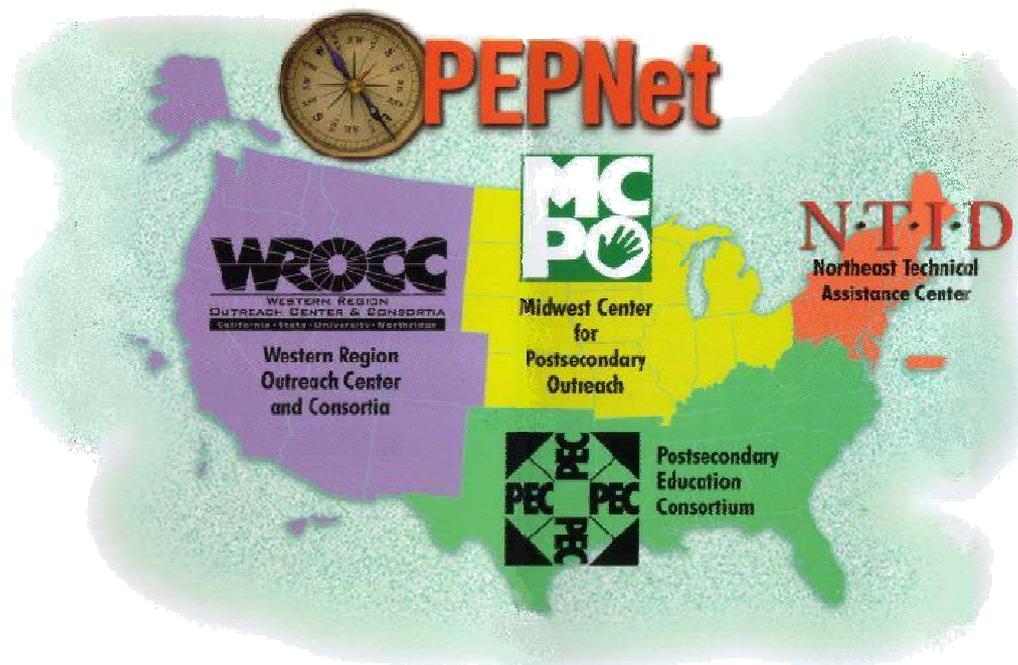


図 1 PEPNet の組織図

表 1 PEPNet を構成する 4 つの地域センター

	中西部	西部	北東部	南部
地域センター				
正式名称	Midwest Center for Postsecondary Outreach	Western Region The Western Region Outreach Center and Consortia	Northeast Technical Assistance Center	Postsecondary Education Consortium
拠点校	セントポール工科大学	カリフォルニア州立大学ノースリッジ校	ロチェスター工科大学	テネシー大学
	拠点校の他に 3 つのサイトを設置	拠点校の他に 2 つのサイトを設置	各州ごとにサイトを設置	各州ごとにサイトを設置
管轄地域	アイオワ、イリノイ、インディアナ、カンザス、オハイオ、ミシガン、ミネソタ、ミズーリ、ネブラスカ、ノースダコタ、サウスダコタ、ウイスコンシン	アラスカ、アメリカ領サモア地域、アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、グアム、ハワイ、アイダホ、モンタナ、ネバダ、ニューメキシコ、北マリアナ諸島、オレゴン、ユタ、ワシントン、ワイオミング	コネチカット、デラウェア、コロンビア特別区、メイン、メリーランド、マサチューセッツ、ニューハンプシャー、ニュージャージー、ニューヨーク、ペンシルバニア、プエルトリコ、ロードアイランド、バーモント	アラバマ、アーカンソー、フロリダ、ジョージア、ケンタッキー、ルイジアナ、ミシシッピ、ノースカロライナ、オクラホマ、サウスカロライナ、テネシー、テキサス、バージニア、バージン群島、ウエストバージニア

区域内の各サイトと地域センター、および 4 つの地域センター同士はメーリングリスト等を利用して密に連絡が取られていたり 4 つのセンターは年に数回集まって協議しているとのことで、4 区域に分かれているとはいえサポートに必要な知識や情報は共同で蓄積されていっているとの印象を受けた。特に、PEPNet 内の各地域センターやサイトによって作成された資料が一元的に管理されているリソースセンター（図 2；実物は CSUN の NCOD 内に設置）の情報は非常に豊富であり、これを見る限りでも PEPNet という形で全米をネットワークで結んだ価値が大きいことがうかがえる。また、4 つの地域センターでは、養成カリキュラムの開発や資料の収集・蓄積等、聴覚障害学生サポートをより充実させるために必要な研究開発を、お互いに分担して重点的に行うなど、非常に効率的に活

動を展開している点は我が国でも学ぶべき所が大きいと思われた。

この他、2年に1度開催される全米大会についても、各地域センターの持ち回りで行われていた。今回視察した大会は、北東部を統括するNETACの主催で行われていたが、全米各地から高等教育機関で聴覚障害学生サポートサービスを担っているサービスコーディネーターや通訳者、カウンセラー、聴覚障害学生、ろう教育関係者、聴覚障害児を持つ両親など、数多くの関係者が訪れ、8会場で50件を超えるセッションが繰り広げられる様子は圧巻としか言いようがなかった。

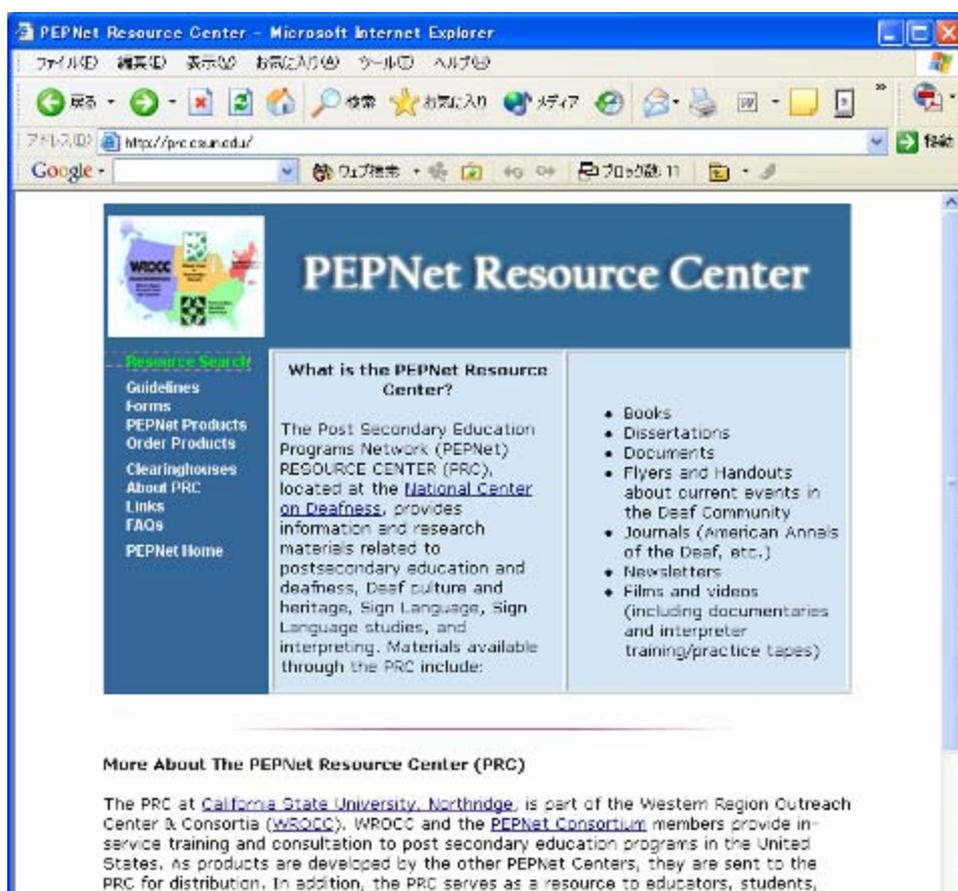


図 2 PEPNet リソースセンターホームページ

3500 種類を超える冊子が紹介されており、その多くが無料でダウンロードできる



図 3 PEPNet 全米大会の様子

3. 地域センターの活動 NETAC の取り組みを中心に

全米全域で行われている PEPNet の活動とは別に、大学の問い合わせに対して対応するといった日々の活動は、各地域センターおよびこのサイトによって行われている。

そのうち米国北東部地域にある NTID に設置されている地域センター NETAC を紹介する（図 4）。NETAC のミッションは、聴覚障害学生の大学入学数を増やし、在籍率および卒業率を上げていくことであるとしている。そのミッションを達成するために、以下の 3 点の活動を展開している。

第一に、聴覚障害学生に対して、大学に入る機会を増やし、高等教育環境に適応できるようにトランジッションのサポートを行う。第二に、教職員に対して、聴覚障害学生のニーズや実態を理解し、どのように関わっていくのかを情報提供・指導・助言を行う。また教員がちょっとした工夫で聴覚障害学生も参加しやすいクラスを作ることができるように援助する。その際、NTID が開発した ClassAct など活用している（ClassAct については「聴覚障害学生のエンパワメント」の 頁を参照）。第三に、聴覚障害学生サポートに関する Material を開発し、大学のニーズやリクエストに応じてサイトコーディネーターや大学教職員に提供する。ただし、NETAC は、直



図 4 NETAC サイト

接聴覚障害学生をサポートするのではなく、むしろ大学で聴覚障害学生サポートを行っている者（例えば支援スタッフ、教職員）を支援する。その理由は、聴覚障害学生への直接的なサポートはあくまでも大学が主体的に行うものであるのだから、だと。

NETAC は、地域センターと大学の支援担当者との相互連携・情報交換のネットワークを円滑化させるために、各州ごとにサイトをおいている。そこで勤務するサイトコーディネーターが、州内のサポートサービスに関する相談に応じたり、大学教職員やノートテイク、手話通訳者、聴覚障害学生等を対象としたワークショップを開催するなどのサービスを提供している。表 2 に NETAC スタッフおよびサイトコーディネーターが提供している各々のサービスの内容を示す。

表 2 NETAC が提供しているサービスの内容

サービス内容	概要
コンサルティング	聴覚障害学生サポート体制を整えようとする大学に対するアセスメント、情報提供、アドバイス、通訳者の紹介、聴覚障害学生へのカウンセリング等の実施。
各種相談への対応（One to One Consultation）	通訳サービスや聴覚障害学生サポートに関する問い合わせに対する情報提供。（年間約 900 件）大学がはじめて聴覚障害学生を受け入れ、通訳の提供方法がわからないとき、サイトコーディネーターが大学を訪問して担当者と相談し、解決策、支援に関わるアイデアや情報を提供する。
ワークショップ・トレーニングの開催	通訳者養成のためのワークショップや聴覚障害学生のためのトランジッションプログラムの開催、教職員のための障害理解 FD、サービスコーディネーターを対象とした養成プログラムの実施など。（年間約 200 件）
プログラムの開発・提供	ノートテイクや C-Print オペレーター養成のためのオンライントレーニングプログラムの開発。聴覚障害学生のためのトランジッションプログラムの開発。
教材、資料の作成・提供	Tip シートをはじめとする教職員啓発のための資料作成、オンラインによる配布。聴覚障害学生のエンパワメントのためのビデオ教材の作成など。
サイトコーディネーター、サービス提供者に対する情報提供	ニュースレターの発行・メーリングリストの運営等を通じた情報提供。

ちなみに、当初は基本的に大学を支援対象にしていたが、現在は中等教育レベルの機関にもサポートを行いはじめている。それは、中等教育レベルで十分なサポートを受けてこなかった学生が大学に入学することが困難であることが示され、PEPN e t からの報告・フィードバックによって連邦政府も中等教育でのサポートを求めるようになっている。ただし、中等教育レベルでのサポートよりも高等教育支援の発展向上を一番の目標として取

り組む姿勢は基本的に変わらない。

3 - 1 . NETAC センターオフィスの役割

NETAC センターオフィスには、現在 5 名のフルタイム、数名のパートタイムスタッフが集結して、高等教育支援の発展に寄与している。ディレクター(マネージメント統括)、プロジェクトディレクターおよびその補佐を務めるプロジェクトアシスタント(NETAC サイトコーディネーター養成指導に関わる全ての業務を担当)、テクニカルスタッフ(サーバ運営やデータベース構築)、プロジェクトアソシエート(ニュースレターの発行など)、スタッフアシスタント(事務関連、会計)、C-print スタッフ(アウトリーチトレーニングの補佐)。

NETAC センターの役割は、大きなリソースセンターであり、かつサイトコーディネーターをコーディネートするセンターでもある。NETAC センターは、サイトコーディネーターに対してリソースを提供する。サイトコーディネーターは州にとってのリソースとなっており、問題解決者であり、アドバイザーになっている。また、問題解決を行う過程で出てきた課題、成果およびアイデア(提案) を NETAC オフィスにフィードバックしてもらい、これを受けて NETAC がさらにリソース開発を行い、その開発したリソースをサイトコーディネーターにフィードバックする。そのリソースとは、聴覚障害学生支援に関わるマテリアルやノウハウである。マテリアルの代表的なものとして、1 つは、聴覚障害や支援技術に関わるテーマ 1 つひとつを 1 枚のシートに簡潔にまとめた Tip シートである。聴覚障害学生への教育、教員、サービス提供者などいろんな目的で活用している。2 つ目は、Faculty Handbook で、教職員に対してたくさんのインタビューを行い、その中からいい事例を取り上げてハンドブックとしてまとめた。3 つ目は、Exhibit Materials で、展示用資料、例えばパンフレットやサインなどがある。

さらに、NETAC の Web 上にデータベースが設置されており、これまでにサポート関係でかかわりをもったコンタクトパーソンのリストが掲載されている(現在は 25 名ほど登録されている)。このデータベースがあれば、支援関係者やサイトコーディネーターはいつでもどこからでも、何らかのテーマや問題解決のノウハウについて参考になりそうな人材を紹介できる。データベースにアクセスした問い合わせや要望を見ると、NETAC でこれから作るべきマテリアルが何なのかがよくわかる。

以上のように、NETAC センターオフィスは、各州のサイトコーディネーターと協同し

て、聴覚障害学生支援に関わるリソースの提案・開発・提供・フィードバックの4段階を循環的に行っており、また一方で、支援現場で有効であったマテリアルやノウハウはセンターのデータベースに蓄積させて外部発信しているのである。

3 - 2 . サイトコーディネーターの役割

サイトコーディネーターは、NETAC センターオフィスと各州にある大学とをつなげる“かなめ”としての役割を担っている。

サイトコーディネーターの仕事は、大学との間で聴覚障害学生支援に関わるパートナー関係を築き、大きく2つの段階にわけて各段階でさまざまな支援を行うことである。2段階とは、初めて聴覚障害学生を受け入れる大学に対してコンサルタントサービスを行う段階と、現行している支援現場の状態にあわせてサービスを提供していく段階とがある。

まず、最初に行うコンサルタントサービスの業務内容について紹介する。まず Best practices を行う。最初に、大学がどの程度聴覚障害学生サポートのことを知っているのかを把握する。次に、はじめて聴覚障害学生を受け入れる大学に対して、通訳者の確保の仕方や活用の仕方を伝えたり、サポートの質をより高いものにするためのモデルやサポートプログラムを紹介するマテリアルを提供した。

次に、現行している支援現場の状況に合わせてサービスを提供していく段階では、次のマテリアルを提供する。1) Newsletter。イベント情報、新しいトピック、Web 情報等。紙媒体だけでなく、メール、Web でも配布可。大学支援担当者がこれまでに入手したニュースレターを元に、NETAC へ連絡してくることがよくある。2) Online Training。ノートテイカー養成、聴覚障害学生にどう関わるかを指導したりする。3) Illustration of Success。聴覚障害学生にロールモデルを示す。就職して成功している聴覚障害学生の様子を見せるなど。

我々に NETAC の組織を説明してくれたスタッフのひとり、「こうしたマテリアルがあれば人が集まってくる(その意味でマテリアル開発・発信は非常に重要であるといえる)。だが一方で、NETAC スタッフが来ることを大学が嫌うという現状もある。なぜなら、大学が今までやってきたことに対して、あれこれ言われるのが嫌であるし、はじめて聴覚障害学生を受け入れてまだ何もできないので、サービスを強制されるみたいで敬遠されるからである。」と実態をもらしていた。この NETAC の理念・方針と大学の理念・方針が異なるためにサービス体制構築へ進められないという問題は、サイトコーディネーターにと

っても最も難しい問題である。そこで、サイトコーディネーターは、何かを一方向的に指導するのではなく、大学もしくは両者間での問題を解決するための関係作りに努めていることを最優先することになっている。お互いのやり方を尊重しあえる関係を作ることで、大学からプロのサイトコーディネーターとして認められるのではないかと思う。

ここで、サイトコーディネーターにとって本質的で重要な仕事とは何かを考えたとき、周りの人が持っている問題を的確に把握し、それにぴったりとはまるシンプルで使いやすい良質の材料を提供していくことである。もし、材料のない領域に関する質問があったときには、それに対応できそうな専門家を探して解決する必要がある。問題を解決してあげれば、大学側は NETAC の重要性をわかってもらえる。また、Peer の存在があれば同じ問題を持っている人たちの集まりをひらくことで、お互いに解決していけることもある。センターオフィススタッフは、「NETAC とは、聴覚障害学生サポートに対して大きな関心を持っている人の集まりであり、あるいは、『ここがよくわからないから教えてほしい』と言える人の集まりである」と言っていたが、サイトコーディネーターは、そうした人々のつながりを作り、支援ネットワークを広げていくプロフェッショナルist といえるだろう。

それでは、以上のような重要な役割と責務を担うサイトコーディネーターを一体だれが担当するのだろうか。

3 - 3 . サイトコーディネーターはどうやって選ばれたのか？

まず初めに NETAC オフィススタッフが各州を訪問し、障害学生サポートに経験のある人を探した。その結果、聴覚障害学生に多く関わってきた人が選ばれた。その人たちの多くは以前から障害学生オフィスで勤務していた。一方、大学内に設置されている障害学生オフィスにいる一人の職員を選出する場合、他のいろんな障害を扱っているものの聴覚障害については知らない人もいたが、NETAC オフィススタッフなど関係者と共同で聴覚障害学生サポートについて勉強してもらった。

こうしてサイトコーディネーターが決定された後は、派遣先の大学と契約（1年契約、毎年更新）を結んだ。サイトコーディネーターの大部分は既に大学内で他の仕事を持っていたので、勤務時間の何割かを NETAC の仕事に費やし、残りを大学の仕事に費やすなどの形とし、その割合にあわせて NETAC から給与保障を行っている。この契約は、大学と

NETAC の契約になっていて、個人契約とは異なっている。つまり、大学職員として大学に所属しながら、一方で NETAC の仕事をしている（NETAC が彼らのサービスを買っている形）。契約は毎年更新され、NETAC オフィスがそれぞれのサイトに対して毎年、次年度に向けた Basic plan を提示し、それを受け取ったサイトコーディネーターがこのプランをベースとして各自独自にやりたい内容を加えて計画を立てる。同時に、次年度の目的を達成するための予算案を提示する。その後、NETAC オフィスで提示された内容を吟味し、翌年の契約を結ぶ。サイトコーディネーターの置かれている大学からは、オフィススペースや電話代など基本的な設備だけを提供している。このように NETAC オフィスとサイトコーディネーターは、お互いに助け合う形で NETAC の運営にあたっているが、そもそも給与などの予算は連邦政府から来ているので、サイトコーディネーターが契約を履行しなかった場合には NETAC から契約を解消することもできるなど非常にきちんとした形での雇用契約になっている。ちなみに、サイトコーディネーター業務にかかる予算（特に給与）は、州内の大学数によって異なるが、平均して 40000 ドル程度（円換算すると 450 万円程）になる。

3 - 4 .「NETAC」のネットワークはどのように発展していったのか？

PEPNet が発足した当初は、いかにして PEPNet の存在、特に米国北東部においては NETAC の存在を各大学に知らせていくことが非常に大きな課題だった。それは、地域に PEPNet の存在意義を周知させ、かつ地域センターオフィスやサイトコーディネーターとよきパートナー関係を築いていくうえでクリアしなければならない重要課題であった。

そこで NETAC の場合、地域内の関係者・関係機関とのネットワークの構築・拡大に向けて次のようなプロセスで取り組んできた。

まず、既存の聴覚障害関係・障害学生支援関係の機関・団体とコンタクトをとった。例えば、障害学生関係の会議等に出向いて行って、NETAC の存在や概要を伝えていった。多くの大学は、さまざまな障害学生を受け入れているので、聴覚障害学生だけを対象にした大会には出席していないことがある。そこで NETAC は、障害学生全般を対象にした大会（例えば AHEAD）やイベントに出向いて NETAC の宣伝を行った。その宣伝を行う中で、関係者から相談されて名刺をもらったら、その裏にその人が抱えている問題を書いておいて、センターオフィスに帰ってから先方に必要な情報を送った。

また、サイトコーディネーターで担いきれない活動については、専門家の力を借りて講

演やワークショップをひらいたり、マテリアルの開発に手伝ってもらった。例えば、Access program のようなワークショップをひらいて、聴覚補償（例えば FM システム、ループシステムなど）について説明するプログラムを、聴覚補償関係の専門家の援助で開発した。その他ノートテイク、C-print、CART、通信教育など特定領域に関する質問に対してコーディネーターが充分かつ適切に回答できない場合は、その質問者と、その道の専門家の間を取り持って対応する。ちなみに当初は、通訳や字幕に関する質問が最も多かった。

最初の段階でネットワークを構築する際に留意したことは、サイトコーディネーターが質問者や関係者に常に何もかも指示しようとするのと彼らとの関係が悪くなるので、専門家を連れてきて説明してもらおうようにする。とりわけ、ろうの専門家（特に Ph.D を持っている者）が来てくれたならば、大学関係者にとって最善のモデルになる。しかも、ろうの専門家の話は、通訳を通して聞くことになるので、大学関係者にとって通訳の使い方も同時に学ぶことができるのである。

さらに現在、NETAC は、ネットワークの拡大・定着化をめざして以下の活動をしている。実にさまざまな方略をとって取り組んでいることから、NETAC スタッフ、サイトコーディネーター、大学担当者など全員で情報をまんべんなく共有し、聴覚障害学生支援の水準をより高めていこうという理念や姿勢がきちんと具現化されていることがわかるだろう（表 3 参照）。

表 3 NETAC におけるネットワークの定着化を目的とした活動

Advisory groups (専門 検 討 会)	年 4 回、障害学生支援サービス提供者やカウンセラーなどを集めてサービスの内容について検討する。NTID で作成された新しいマテリアルについて検討し合ったり、個々のニーズについて話をしたりする。
ニュースレター	NETAC ニュースレター（章末参照）と州内のニュースレターの 2 種類作成し、各州に配布している。
メーリングリストの活用	ML を作って情報交換をする。 PEPNet ML：聴覚障害学生サポートについての議論をする ML。一人が質問すると、全米各地から答えが返ってきて、みんなでその内容を勉強することができる。 州内の ML：イベントのアナウンスをする）
ワークショップ	NETAC 公式のワークショップ、トレーニング、講演会などをひらく。テーマは、「聴覚障害学生に開かれた大学を作るために」「聴覚障害学生のリテラシー向上のために」などがある。
SCS 研修	各地域で研修会を行う。
フォローアップ	一度情報を送った人に対して、その後必要な情報が入ったら随時情報を提供していく。

3 - 5 . NETAC はなぜ成功を収めているのか？

我々に PEPNet および NETAC の概要を説明した NETAC オフィススタッフは、最後に NETAC が成功を収めている主な要因をいくつかあげてくれた。

第一にサイトコーディネーターの資質である。NETAC が雇用した多くのサイトコーディネーターは聴覚障害学生と長く関わってきており、なおかつそれぞれの州の事情をよく知っている。例えば、どこに聴覚障害に関してどのような専門の人がいるかを知っているように。サイトコーディネーターの資質には次の 3 点が挙げられる。1) 障害学生関係の勤務経験を持つ、2) その障害関係のうち聴覚障害学生関連の実績をもっていること、3) 聴覚障害に関する専門的な指導を受け、彼らのニーズを把握し、彼らの視点で物事を考えられること、である。ちなみに、サイトコーディネーターのほとんどは BA、MA 取得者であり、PhD を持っている人は一人だけである。それでも、こちら側に聴覚障害学生サポート関係の専門的知識と実績があれば有名な大学の先生たちとも張り合っていける。その意味では、人と上手く関わる人を選んでいくことが重要であり、サイトコーディネーターになる者がどれほどいい人であるかが仕事の質を決めることになる。また、センターオフィスのスタッフたちも優れた資質をもっていることもみのがせない。

第二に、米国では伝統ある大学が障害のある学生にいろんなサービスをすでに提供してきた土壌がある。北東部では、NTID には多数のろう関係の専門家がいて、あらゆる質問・問題に対応することができる。

第三に、米国には ADA がある。20 年前には聴覚障害学生はごく限られた大学にしか入っていなかったが、ADA ができて以来、他のいろんな大学に聴覚障害学生の進学が広がっていったのである。

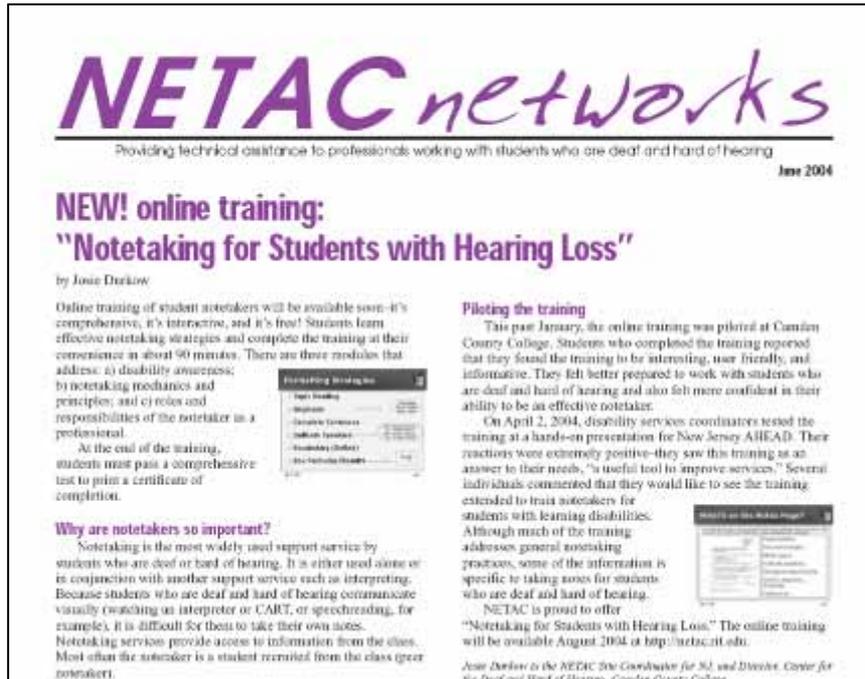


図5 NITACのニューズレター

<http://www.netac.rit.edu/publication/newsletter/>

各種ワークショップの案内等が掲載されており、活動の様子がよくわかる

注・参考文献

- 1) NTID (2003) FY2002 Annual report. NTID.
- 2) 須藤正彦・大沼直紀・小林正幸・荒木勉・橋本公克・松藤みどり(2001) アメリカの聴覚障害者の高等教育機関における教育組織と教育内容・方法に関する比較研究. 筑波技術短期大学 テクノレポート, 8, .
- 3) NETAC (2004) Northeast Technical Assistance Center. NETAC.
- 4) NETAC <http://www.netac.rit.edu/index.html>
- 5) NETAC (2004) Northeast Technical Assistance Center Annual report. NETAC
- 6) PEPNet (2004) Post Secondary Education Programs Network. PEPNet.
- 7) PEPNet <http://www.pepnet.org/>

PEPNet Provides

- Technical Assistance
- Training
- Biennial Conferences
- Distance Learning Opportunities
- Publications
- Training Materials
- Financial Aid Information
- Consultations
- Faculty/Staff Development
- Administration Development
- Enhancement of Support Services
- On-line Learning Opportunities
- Transition Services



PEPNet ...
Taking higher and higher the
postsecondary education
of students who are
Deaf and Hard of Hearing.
Call your Regional Center
Today.

PEPNet is a national collaborative effort.
For more information, contact your
Regional Center.

Midwest Center for Postsecondary Outreach (MCPO)

St. Paul Technical College
235 Marshall Avenue
Saint Paul, MN 55102
(651) 846-1550(V)
(651) 846-1527(TTY)

Email: patty.brill@spc.mnscu.edu
Raymond Olson, Director

Northeast Technical Assistance Center (NETAC)

*National Technical Institute for the Deaf,
a college of Rochester Institute of Technology*

52 Lomb Memorial Drive
Rochester, NY 14623-5604
(585) 475-6433 (V/TTY)
(585) 475-7660 (Fax)

Email: netac@rit.edu
Dianne K. Brooks, Director

Postsecondary Education Consortium (PEC)

The University of Tennessee
Claxton Complex A507
Knoxville, TN 37996-3400
(865) 974-0607 (V/TTY)
(865) 974-3522 (Fax)

Email: pec@utk.edu
Donnell Ashmore, Director

Western Region Outreach Center & Consortia (WROCC)

California State University Northridge
18111 Nordhoff Street
Northridge, CA 91330-8267
Toll Free (888) 684-4695 (V/TTY)

(818) 677-4899 (Fax)
Email: wrocc@csun.edu

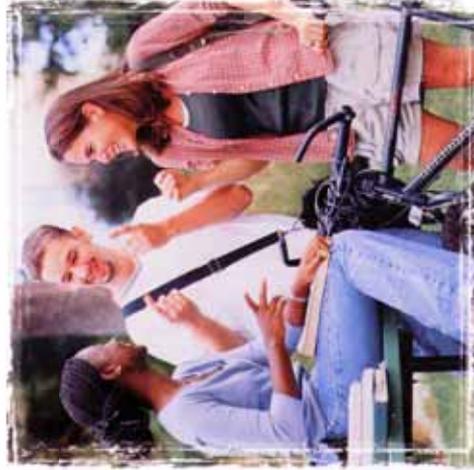
Dr. Merri C. Pearson, Director

<http://www.pepnet.org>

PEPNet is funded through the Individuals with Disabilities
Education Act (IDEA), US Department of Education,
Office of Special Education and Rehabilitative Services.



Postsecondary Education Programs Network



Providing Technical Assistance to
Postsecondary Institutions Serving
Individuals Who Are
Deaf and Hard of Hearing

PEPNet Mission

The mission of PEPNet is to promote coordination and collaboration among the four Regional Postsecondary Centers for Individuals Who Are Deaf and Hard of Hearing. PEPNet's goal is to provide technical assistance to postsecondary educational institutions providing access and accommodations to individuals who are deaf or hard of hearing.

PEPNet Objectives

- To improve postsecondary access and transition opportunities for individuals who are deaf or hard of hearing.
- To develop a national design for technical assistance and outreach service delivery to assure that postsecondary institutions and the students they serve will benefit from PEPNet's collaboration and coordination efforts.
- To expand the knowledge and skill of postsecondary institutions related to the provision of educational support services for deaf and hard of hearing students.
- To cooperate with secondary and postsecondary institutions in developing outreach strategies and disseminating information to individuals who are deaf to enhance their awareness of available postsecondary opportunities.
- To increase the postsecondary enrollment, retention, graduation, and employment rates of students who are deaf and hard of hearing.

PEPNet Stakeholders

The four PEPNet Regional Centers provide technical assistance and facilitate a collaborative network of communication and consortia among two and four-year colleges, vocational training and rehabilitation programs, adult education programs, private and public community service agencies, secondary education personnel, deaf and hard of hearing individuals, consumer and professional organizations, state and national organizations and clearinghouses.

Saint Paul Technical College is the site of the Midwest Center for Postsecondary Outreach (MCPO). For over 30 years St. Paul Technical College has been a leader in providing technical education and assisting deaf and hard of hearing students from across the U.S. to successfully complete career training and become gainfully employed. MCPO serves the Midwest Region which includes the states of Illinois, Indiana, Iowa, Kansas, Michigan, Minnesota, Missouri, Nebraska, North Dakota, Ohio, South Dakota and Wisconsin.



Midwest Center for Postsecondary Outreach

The Northeast Technical Assistance Center (NETAC) is located at Rochester Institute of Technology in Rochester, New York. NETAC is supported by one of RIT's colleges, the National Technical Institute for the Deaf, the world's first and largest technological college for deaf and hard of hearing students. NTID's mission is to provide deaf and hard of hearing students with outstanding state-of-the-art technical and professional education programs, complemented by a strong liberal arts and science curriculum that prepares them to live and work in the mainstream of a rapidly changing global community and enhances their lifelong learning. NETAC's region includes the states and territories of Connecticut, Delaware, District of Columbia, Maine, Maryland, Massachusetts, New Hampshire, New Jersey, New York, Pennsylvania, Puerto Rico, Rhode Island, Vermont and the Virgin Islands.



The Southern Region is served by the Postsecondary Education Consortium (PEC) located in the Center on Deafness at the University of Tennessee, Knoxville. PEC has a long history of providing technical assistance to postsecondary institutions across the region and currently serves Alabama, Arkansas, Florida, Georgia, Kentucky, Louisiana, Mississippi, North Carolina, Oklahoma, South Carolina, Tennessee, Texas, Virginia and West Virginia.



The Western Region Outreach Center and Consortia (WROCC) is located at the National Center on Deafness at California State University, Northridge. Since 1963, the National Center on Deafness has been a leader in the development and delivery of innovative support services to the largest number of deaf and hard of hearing students enrolled in a mainstream university in the region. WROCC serves the states and territories of Alaska, American Samoa, Arizona, California, Colorado, Guam, Hawaii, Idaho, Montana, Nevada, New Mexico, Northern Marianas Islands, Oregon, Utah, Washington and Wyoming.

We've got experience

The Northeast Technical Assistance Center (NETAC) was established in 1996 by the U.S. Department of Education, Office of Special Education and Rehabilitative Services (OSERS), to help improve existing postsecondary education support services or to establish new services for students who are deaf and hard of hearing.

The other regional centers are the Midwest Center for Postsecondary Outreach at St. Paul Technical College in St. Paul, Minnesota; the Postsecondary Education Consortium at the University of Tennessee, Knoxville; and the Western Region Outreach Center and Consortia at California State University, Northridge. The common goals of these four centers are:

- To increase access and transition opportunities for students who are deaf and hard of hearing
- To expand the knowledge and skills of those who work with students who are deaf and hard of hearing
- To enhance resources and increase the amount of information available to institutions who want to improve their support services
- To increase enrollment, retention, and graduation rates for postsecondary students who are deaf and hard of hearing



NETAC
serves:



Contact us today

For more information about NETAC, please visit us on-line at <http://netac.rit.edu> Or contact us at:

Northeast Technical Assistance Center
Rochester Institute of Technology
National Technical Institute for the Deaf
52 Lomb Memorial Drive
Rochester, NY 14623-5604
(585) 475-6433 (V/TTY)
(585) 475-7660 (Fax)
netac@rit.edu
<http://netac.rit.edu>

This publication was developed under a grant from the U.S. Department of Education, Office of Special Education and Rehabilitative Services (OSERS) and produced through a cooperative agreement between RIT and USIBH (R13ED00016). The contents do not necessarily represent the Department of Education's policy nor endorsement by the Federal Government.

W300 12-05 Printing Methods, Inc.

Northeast Technical Assistance Center



One of four regional centers dedicated to working with secondary and postsecondary institutions to improve educational access and enhance educational opportunities for students who are deaf and hard of hearing.

Located at the

National Technical Institute for the Deaf,
one of eight colleges of Rochester Institute of
Technology, Rochester, New York

We've got connections

NETAC works with two- and four-year colleges, proprietary programs, secondary schools, vocational training programs, adult education programs, private and public community service agencies, consumer and professional organizations, state and national organizations, and individuals.

We've got a long-range plan

NETAC has been funded through 2006. This means that those needing information and support can contact us at our central office, located at RIT, or can contact a NETAC-designated "site coordinator" directly. NETAC serves Connecticut, Delaware, District of Columbia, Maine, Maryland, Massachusetts, New Hampshire, New Jersey, New York, Pennsylvania, Puerto Rico, Rhode Island, U.S. Virgin Islands, and Vermont.

We've got information you can use—in print or on the Web

NETAC offers a variety of free publications on topics related to working with students who are deaf and hard of hearing, including an extensive *Teacher Tipsheet* series; an informational guide, "Financing Your

Education"; a training package, "ACCESS: How Best to Serve Postsecondary Students Who Are Hard of Hearing"; a Proprietary Schools resource directory; and lots of other information that's current. All of NETAC's written publications are available on our Web site at <http://netac.rit.edu>.

We've got C-Print™

The nationally acclaimed C-Print™ project, begun at NTID in 1990, is an important resource available through NETAC. This speech-to-print classroom transcription system is one of the country's premier accommodation strategies. C-Print™ is one of several technological innovations available through NETAC.

We've got workshops, internships, and "tips" galore

NETAC offers local and regional workshops on cutting-edge topics such as how to help students plan for life after high school; how vocational rehabilitation and colleges can work together to assist students who are deaf and hard of hearing; and how to assimilate employees who are deaf and hard of hearing into the workplace. NETAC offers internships that allow professionals who work with deaf and hard-of-hearing students



to visit various sites within the NETAC region to hone their skills in areas such as teaching, grant writing, and providing support services to students.

Finally, NETAC offers more than two dozen free *Teacher Tipsheets* that offer concise information on topics relevant to deaf education.

We've got tomorrow's issues today

NETAC has information on "hot" topics such as transitioning to college, assistive listening devices, on-campus accessibility, voice recognition technology, interpreting, legal issues involving deaf and hard-of-hearing students, and more.

We've got time...for you

NETAC's staff members pride themselves on being able to respond quickly to inquiries relevant to our mission. If we don't have the answer, we'll find it...and soon. NETAC has a national network of professionals who usually can respond to questions within just a few days. NETAC staff members are real persons with real solutions!

PEPNet-Japan

PEPNet-Japan; Postsecondary Education Programs Network of Japan

Postsecondary Education Programs Network of Japan is a collaborative network among pioneer universities and colleges which accept Deaf or hard of hearing individuals and provide effective services. It is led by National university corporation - Tsukuba University of Technology (NTUT) which is the only university for the Deaf or hard of hearing individuals in Japan, and 12 partner institutions across Japan.

The missions of PEPNet-Japan partner institutions are to find and develop best support model for students who are Deaf or hard of hearing, and to assist other institutions using know-how developed by them.

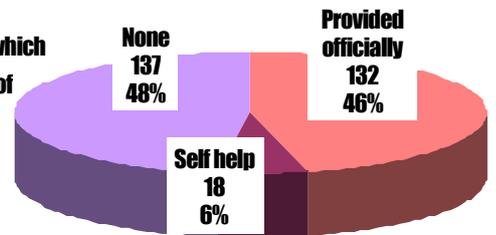


Partner institutions of PEPNet-Japan

Current situation of postsecondary education for Deaf or H/H students

According to nation wide survey by PEPNet-Japan, individuals who are Deaf or hard of hearing are enrolled in about 30% of the universities and colleges throughout Japan. However, only half of these institutions (132 schools) provide services to access information in their classes. One of the most common services is notetaking done by volunteer students who are trained as notetaker, but interpreting and speech to text service are rather limited. Only 10 % of universities and colleges have support office for disabled students, and less than five of them hire sign language interpreter.

N=287 (Institutions which accept Deaf or hard of hearing students)



Notetaking service in Universities and colleges

PEPNet-Japan projects

To improve these situations, PEPNet-Japan has been working on three major projects as well as offering workshops, symposiums, informational guides, and consultations to help postsecondary institutions improve the accessibility of their programs.

1 Development of a Japanese Tipsheets

Develop a reference booklet on support for Deaf students applicable to Japanese universities, based on the Tipsheets developed by NETAC.

2 Development of Curriculum and Materials for Notetaker Training

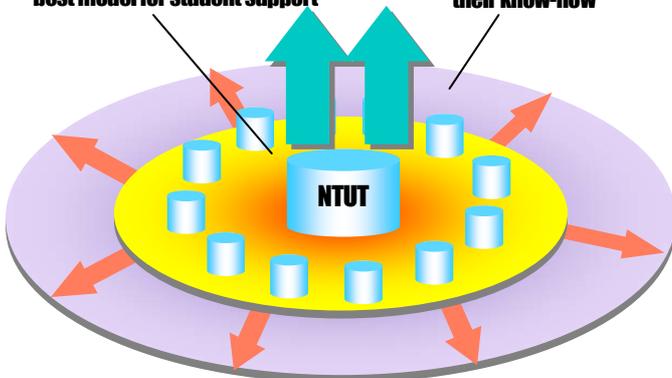
Evaluate notetaker training programs currently provided in postsecondary education institutions, develop audio-visual materials and curriculum for successful training.

3 Development of a Manual on How to Create and Operate a Student Support System

Develop a manual that provides the know-how to structure a support system for Deaf or hard of hearing students at each institutions, including how to set up a support office, hire interpreter etc.

Collaborative network to develop best model for student support

Support network to spread their know-how



Model of PEPNet-Japan's mission

Postsecondary Education Programs Network of Japan



PEPNet-Japan Calendar for year 2004 to 2006

Year 2004	
April 14 to 25	The 1st study tour in U.S.: NTID and Pittsburg Attending PEPNet conference 2004
May to September	Nation wide survey of student services in the universities and colleges
June 17	Report meeting on faculty development in NTID and Pittsburg
July to January	Publication of the report of faculty development in NTID and Pittsburg
September 10	Board meeting on setting up PEPNet-Japan
October 29	The 1st PEPNet-Japan business meeting
Year 2005	
January 4 to 8	Visiting NETAC office and NETAC site in NYC by board member
January 28	The 2nd PEPNet-Japan business meeting
March 13 to 24	The 2nd study tour in U.S.: NTID and NETAC site in NYC
April 3	Exchange event for Deaf and hard of hearing students in the Kita-Kanto and Tohoku areas
May 14	Reporting session on the faculty development in NTID and NETAC site in NYC (At the 8th Forum on the Deaf and Postsecondary Education)
May 14	The 3rd PEPNet-Japan business meeting
June 12	The 1st Project operational meeting
June 22 to July 1	Participation in NTID Technology Symposium
June 23	SCS Training course: Nationwide support network for students with disability
July 24	The 2nd project operational meeting (3-project joint meeting)
September 23	Symposium "Toward the development of a postsecondary educational support network for deaf and hard of hearing students" (on the sidelines of the 43rd conference of the Japanese association of special education)
October 7 to 11	Visiting partner institutions by board member of PEN-International
October 8	The 1st symposium of PEPNet-Japan
October 9	The 4th PEPNet-Japan business meeting

December 16	Training seminar for faculty and staff engaged in support for deaf students: Support services in postsecondary educational institutions for individuals who are Deaf or hard of hearing
Year 2006	
January 28 to 29	The 5th PEPNet-Japan business meeting
February	Construction of new website Start list serve service "Effective support to increase accessibility of your programs"
March 29 to April 9	The 3rd study tour in U.S.: NTID and Kentucky Attending PEPNet conference 2006



The 1st study tour in U.S.



The 1st business meeting



Reporting session on the FD in NTID



Project operational meeting



Symposium of PEPNet-Japan



Training seminar for faculties



PEPNet-Japan products

PEPNet-Japan (<http://www.pepnet-j.com>)

The Project by National university corporation - Tsukuba University of Technology Supported by PEN-International, a grant program of The Nippon Foundation of Japan at the National Technical Institute for the Deaf at Rochester Institute of Technology (USA)



PEPNet-Japan は日本財団の助成により運営されている PEN-International の活動の一部で、筑波技術大学によって運営されています。

